



TITLE:

<記事>1.概要

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>1.概要. 瀬戸臨海実験所年報 2005, 18: 2-3

ISSUE DATE:

2005-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179044>

RIGHT:

1. 概 要

平成 16 年度

◎ 職員等の移動

- ・ 佐藤敦子氏休学（平成 16 年 9 月 26 日-平成 19 年 9 月 30 日）。
- ・ 栗原晴子氏を教務補佐員として受入（平成 16 年 10 月 1 日）。
- ・ Rigby, Patricia Robin 氏を教務補佐員として受入（平成 16 年 10 月 6 日-平成 17 年 3 月 31 日）。
- ・ 宮崎勝己助手が講師に昇任（平成 16 年 10 月 16 日）。
- ・ 田名瀬英朋助手が定年退職（平成 17 年 3 月 31 日）。
- ・ 石田路子氏、佐藤剛毅氏、栗原晴子氏、三瀬武史氏、原功次郎氏、大谷馨氏が退所（平成 17 年 3 月 31 日）。
- ・ 岸田拓士氏を博士後期課程として受入（平成 17 年 4 月 1 日）。
- ・ 新井伸一事務掛長が医学研究科へ転出、深尾秀正事務主任が農学研究科等経理課用度掛から事務掛長として着任（平成 17 年 4 月 1 日）。
- ・ 深見裕伸氏を助手として採用（平成 17 年 4 月 1 日）。
- ・ Rigby, Patricia Robin 氏を日本学術振興会特別研究員として受入（平成 17 年 4 月 1 日-平成 19 年 3 月 31 日）。
- ・ 田名瀬英朋氏を派遣職員として雇用（平成 17 年 4 月 1 日-平成 18 年 3 月 31 日）。

◎ 行事・来訪者

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於お茶の水女子大学, 東京)、宮崎勝己助手が出席（平成 16 年 5 月 19 日）。
- ・ 第 2 回フィールド科学教育研究センター会議（於京都大学, 紀伊大島実験所）、教員全員が出席（平成 16 年 5 月 25 日-5 月 26 日）。
- ・ Publication of the Seto Marine Biological Laboratory 第 40 巻 1/2 号発行（平成 16 年 7 月 31 日）。
- ・ 大学院入試（平成 16 年 8 月 9 日-8 月 11 日）。
- ・ 外国人共同研究者として、Hari, La Iti, Harmin 氏（ハルオレオ大学農学部講師, インドネシア）来所（平成 16 年 10 月 23 日-平成 16 年 11 月 18 日）。
- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(秋季)(於九州大学, 天草臨海実験所)、白山義久教授が出席。（平成 16 年 10 月 27 日）。
- ・ 第 3 回フィールド科学教育研究センター会議（於京都大学, 舞鶴水産実験所）、教員 4 名出席（平成 16 年 11 月 4 日）。
- ・ Rozendaal, N.W. 氏（元技術エンジニア, オランダ）Rozendaal-Voerman, E.J. 氏（元教師, オランダ）Ates, R.M.L. 氏（フリー記者, オランダ）Ates-Van Midden, S.C. 氏（Ates 夫人, オランダ）来所（平成 16 年 11 月 9 日-平成 16 年 11 月 24 日）。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報 17 巻発行（平成 16 年 12 月 25 日）。
- ・ 水族館開館（平成 16 年 12 月 29 日-平成 17 年 1 月 3 日）。
- ・ Ernawati, Widyastuti 氏（インドネシア科学院海洋学研究センター研究助手, インドネシア）来所（平成 17 年 1 月 25 日-平成 17 年 2 月 28 日）。
- ・ Chawaporn, Jittanoon 氏（カセサート大学小産学部, タイ）来所（平成 17 年 1 月 29 日-平成 17 年 2 月 28 日）。
- ・ 第 1 回古座川シンポジウム「アユの生態に学ぶ」を開催（平成 17 年 3 月 13 日）。
- ・ 水族館年中無休（平成 17 年 4 月 1 日）。

(訂正・追加)

- ・ 瀬戸臨海実験所年報 13 巻 2 ページの「Publication of the Seto Marine Biological Laboratory 第 39 巻 1/2 号発行」は第 39 巻 1 号の誤り。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報 14 巻 2 ページの「Publication of the Seto Marine Biological Laboratory 第 39 巻 1/2 号発行」は重複。
- ・ Publication of the Seto Marine Biological Laboratory 第 39 巻 2/3 号発行 (平成 14 年 3 月 31 日)。<記載漏れ>

2. 臨海実習

□平成 16 年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学及び高校の臨海実習が下記の通り実施された。

(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)

京都大学理学部生物系臨海実習 I	8/24-8/31	延	96 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 I	9/13-9/20	延	72 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 II *	3/16-3/22	延	98 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 III *	3/23-3/28	延	42 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	8/24-8/31	延	8 人・日
京都大学全学共通科目生物学実習 II	2/22-2/25	延	96 人・日
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 INTER LAB	4/13-4/14	延	104 人・日
京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻気象海象観測実習	9/20-9/21	延	28 人・日
京都大学大学院人間・環境学研究科海洋化学実習	8/10-8/13	延	72 人・日
京都大学新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ) (1 部) 「海洋生物の多様性」	9/6-9/8	延	48 人・日
京都大学新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ) (2 部) 「紀伊半島南部の里域生物相調査」	9/8-9/10	延	12 人・日
京都大学フィールド科学教育研究センター森里海連環学実習	9/23-9/25	延	36 人・日
京都大学瀬戸臨海実験所公開臨海実習 (学部生対象)	9/13-9/20	延	56 人・日
京都大学瀬戸臨海実験所公開臨海実習 (学部生対象)	3/22-3/28	延	49 人・日
和歌山大学教育学部臨海 (植物) 実習 A	4/6-4/10	延	60 人・日
大阪教育大学教育学部臨海実習	5/17-5/22	延	90 人・日
奈良女子大学理学部臨海実習	5/31-6/5	延	102 人・日
放送大学第 1 学期 (土日型) 「海洋生物の多様性」	6/12-6/13	延	30 人・日
奈良教育大学教育学部臨海実習	6/15-6/19	延	55 人・日
和歌山大学教育学部臨海 (動物) 実習 B	7/1-7/5	延	60 人・日
神戸市立須磨海浜水族園磯の動物の系統分類学実習	7/9-7/12	延	76 人・日
大阪市立大学理学部臨海実習	7/12-7/18	延	105 人・日
日米共同理科教育ネットワークプログラム	7/25-7/28	延	84 人・日
滋賀県立膳所高等学校第 35 回生物実習旅行	7/28-7/31	延	60 人・日
兵庫県立尼崎小田高等学校サイエンスリサーチ科臨海実習	8/2-8/4	延	42 人・日
関西学院大学理工学部臨海実習	8/5-8/9	延	100 人・日
信州大学理学部計測化学特論実習	8/10-8/13	延	60 人・日
人間環境大学人間環境学部臨海実習	8/10-8/13	延	4 人・日
京都教育大学教育学部生物学夏季実習 II 実習	8/16-8/20	延	75 人・日
大阪大学理学部生物学臨海実習	8/31-9/5	延	126 人・日
大阪千代田短期大学幼児教育科磯観察実習	10/1-10/3	延	48 人・日